



日本SPF豚協会だより

2019. 4
No.75

特集

日本SPF豚協会、これまでの50年、これからの50年④

入口防疫(ハード)+(プラス) 快適性防疫(ソフト)を

一般社団法人日本SPF豚協会副会長
(株)サンエスブリーディング社長

秦 政弘



協会は、養豚を取り巻く環境の変化に対応しながら、学術経験者、生産者、消費者など多くの関係者に支えられ50周年を迎えることができました。

徐々にではありますがシェアも伸び、現段階での認定農場数は国内農場数の約5%、母豚飼育頭数は約9.7%となりました。この数値をどう評価するかは意見の分かれるところです。養豚戸数が減少する中、SPF豚のシェアを増やすことは至難の業ではあると思いますが、関係者の力添えもお願いしながら、何とか「増やす&減少を防ぐ」対策を前向きに進めて行きたいと思えます。

SPF豚生産者は、SPF養豚が抗菌性物質使用に頼らず疾病(再興疾病、新興疾病)を防御し、消費者へ安全・安心を提供し、且つ利益が上がる最善の生産システムだと信じて取り組んでいます。

しかし、問題点もあります。農場間の成績格差が非常に大きいこと、認定中止や取消に至る疾病を根絶できないこと、コンベンショナルの生産者であっても認定農場より高水準の農場があること、まだまだ現状認識が甘い生産者がいること、などです。

これらを考えると、認定規則のみでは生産者が信じている(夢見ている)システム(付加価値生産、儲かる養豚)に疑問が発生するのではないのでしょうか。

認定規則は、生産性を阻害する疾病の侵入防止対策として感染経路遮断(疑わしいものは近寄らせない、入れない)による農場立地を含めた入口防疫規制が主で、豚自身の感染防御能力を高めての防疫、言わば飼育環境対策によるハイヘルス防疫という概念が足りない気がします。認定農場の格差縮小(レベルアップ)、シェア拡大のためには、

協会としても改善すべきだと考えます。

豚の能力は良い環境下で発揮され、環境が悪いと最大限発揮されません。また、指導者が変わることで成績が向上した農場の例も少なくありません。認定農場における格差は農場従事者のモチベーション(豚から教わり豚に返す心)の差が大きい事は言うまでもありませんが、入口の防疫対策(ハード面)が浸透した今こそ、それを維持・向上・継続させ、付加価値生産性を高めるためには、飼育環境(ソフト面)改善指標(飼育密度、温・湿度調整、換気調整(空気鮮度)、塵埃、飲水、飼育空間(容積)、豚房の衛生度、飲水、飼料、etc)が必要なのではないでしょうか。やむなく投薬、治療の必要が発生した場合でも、効果が発揮しやすい環境であれば最小限の薬剤使用ですむかもしれません。

また、協会として、現在重要視されている動物福祉(アニマルウェルフェア)についても、養豚(食肉用豚生産)に合った基準を検討・作成すべきだと思います。『豚の快適性』に配慮し、豚自身の感染防御力を機能させるための飼育環境評価基準を作成し、認定基準のチェック項目に加えることが、さらなる防疫対策につながるのではないのでしょうか。

また、今後、消費者との密着度がより強化されると、コンプライアンス、トレサビリティなどが重要となり、認定(認証)機関の位置付け、客観性等も重要になってくることが予想されます。

関係各位のご支援・ご指導をお願いし、これらを今後の課題とし、SPF豚認定制度の地位向上のための努力を続けたいと思います。

SPF豚農場と飼養頭数の分布 (2019年3月現在)

表1 認定農場の分布

| 飼養規模(頭) | 北海道 | 東北 | 関東 | 北信越 | 東海近畿 | 中四国 | 九州 | 合計 | 飼養母豚数 |
|-----------|-----|----|----|-----|------|-----|----|-----|--------|
| 99以下 | 2 | 0 | 5 | 0 | 0 | 3 | 0 | 10 | 580 |
| 100～299 | 4 | 7 | 21 | 3 | 0 | 1 | 5 | 41 | 7,737 |
| 300～599 | 4 | 6 | 9 | 4 | 0 | 8 | 7 | 38 | 15,979 |
| 600～999 | 1 | 9 | 4 | 1 | 2 | 1 | 11 | 29 | 22,744 |
| 1,000以上 | 2 | 11 | 3 | 0 | 0 | 2 | 7 | 25 | 32,616 |
| 計 | 13 | 33 | 42 | 8 | 2 | 15 | 30 | 143 | 79,656 |
| 子豚育成・肥育専門 | 2 | 4 | 13 | 5 | 1 | 4 | 18 | 47 | |
| 合計 | 15 | 37 | 55 | 13 | 3 | 19 | 48 | 190 | |

| 飼養母豚総頭数 | 北海道 | 東北 | 関東 | 北信越 | 東海近畿 | 中四国 | 九州 | 合計 |
|---------|-------|--------|--------|-------|------|-------|--------|--------|
| | 5,618 | 25,888 | 14,974 | 2,885 | 720 | 7,111 | 22,460 | 79,656 |

表2 認定農場および飼養母豚数の推移

| 年度 | 2014 | | 2015 | | 2016 | | 2017 | | 2018 | |
|-----------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|
| | 農場数 | 飼養母豚数 |
| 北海道 | 15 | 5,096 | 14 | 4,903 | 14 | 4,942 | 13 | 4,439 | 13 | 5,618 |
| 東北 | 33 | 26,438 | 31 | 25,975 | 32 | 25,901 | 32 | 25,735 | 33 | 25,888 |
| 関東 | 45 | 14,598 | 42 | 14,546 | 43 | 14,779 | 42 | 14,594 | 42 | 14,974 |
| 北信越 | 9 | 3,441 | 9 | 3,421 | 9 | 3,417 | 8 | 3,140 | 8 | 2,885 |
| 近畿東海 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 682 | 2 | 720 |
| 中四国 | 15 | 7,457 | 14 | 7,630 | 14 | 7,615 | 14 | 6,898 | 15 | 7,111 |
| 九州 | 31 | 23,106 | 32 | 23,943 | 30 | 22,755 | 30 | 22,116 | 30 | 22,460 |
| 子豚育成・肥育専門 | 33 | | 35 | | 35 | | 43 | | 47 | |
| 全国 | 182 | 80,136 | 178 | 80,418 | 178 | 79,409 | 184 | 77,604 | 190 | 79,656 |

例年同様、やむを得ない事情により認定を休止している農場については、戸数は集計に含め、頭数は含めない。認定農場数は190（GGP・GP農場21、子豚育成・肉豚肥育専門農場含む）と増加、飼養母豚数も増加し一昨年度の規模を回復した。これは、新設GP農場やマルチサイト農場の新規加入、既存中規模農場の規模拡大および前年度新規農場のフル稼働等によるもので、特に1000頭以上飼養する農場数が増加した。地域的には北信越地区を除いて規模拡大傾向が見られ、特に北海道の増頭が目立つ。全国の飼養母豚数82.4万頭（平成30年2月現在、畜産統計）に占める認定SPF豚の割合は9.7%と、前年を0.5ポイント上回った。

CM認定農場の生産成績 (2018年度)

表1 一貫生産農場

| | 件数 | 母豚数 | 生産指数 | 農場回転数 | | 農場飼料要求率 | | 出荷頭数/母豚 | | A薬品費/肉豚 | |
|------|-----|-----|--------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
| | 104 | 平均 | | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 |
| 基準値 | | | 100.00 | 1.70 | 15.00 | 3.19 | 25.00 | 21.35 | 40.00 | 286 | 20.00 |
| A | 26 | 610 | 123.69 | 1.96 | 17.29 | 3.00 | 26.50 | 24.72 | 46.32 | 92 | 33.58 |
| B | 26 | 555 | 109.18 | 1.77 | 15.62 | 3.20 | 24.95 | 22.33 | 41.84 | 189 | 26.78 |
| C | 26 | 504 | 99.85 | 1.72 | 15.20 | 3.26 | 24.46 | 21.71 | 40.68 | 292 | 19.55 |
| D | 26 | 533 | 91.36 | 1.66 | 14.62 | 3.32 | 23.96 | 20.63 | 38.66 | 370 | 14.12 |
| 最高成績 | | 988 | 134.23 | 2.16 | 19.10 | 2.56 | 29.95 | 27.94 | 52.34 | 2 | 39.87 |
| 最低成績 | | 97 | 80.95 | 1.24 | 10.91 | 3.96 | 18.97 | 16.02 | 30.02 | 445 | 8.87 |
| 平均値 | | 550 | 106.02 | 1.78 | 15.69 | 3.19 | 24.97 | 22.35 | 41.87 | 236 | 23.51 |

表2 繁殖専門農場-II (分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場)

| | 件数 | 母豚数 | 生産指数 | 分娩回数 / 年 | | 離乳頭数 / 母豚 | | 出荷子豚数 / 母豚 | | A 薬品費 / 子豚 | |
|------|----|-------|--------|----------|-------|-----------|-------|------------|-------|------------|-------|
| | 11 | 平均 | | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 |
| 基準値 | | | 100.00 | 2.30 | 20.00 | 22.53 | 20.00 | 21.43 | 40.00 | 160 | 20.00 |
| A | 3 | 1,338 | 126.55 | 2.45 | 21.34 | 26.35 | 23.39 | 26.00 | 48.53 | 54 | 33.28 |
| B | 3 | 615 | 111.04 | 2.27 | 19.79 | 22.71 | 20.16 | 21.05 | 39.29 | 66 | 31.80 |
| C | 3 | 1,148 | 101.22 | 2.30 | 20.03 | 24.09 | 21.39 | 22.85 | 42.65 | 183 | 17.15 |
| D | 2 | 802 | 94.58 | 2.29 | 19.86 | 23.45 | 20.82 | 22.43 | 41.87 | 224 | 12.05 |
| 最高成績 | | 1,244 | 130.35 | 2.49 | 21.69 | 26.76 | 23.76 | 26.54 | 49.54 | 11 | 38.67 |
| 最低成績 | | 683 | 93.86 | 2.04 | 17.76 | 20.39 | 18.10 | 18.87 | 35.23 | 231 | 11.16 |
| 平均値 | | 991 | 109.60 | 2.33 | 20.29 | 24.21 | 21.50 | 23.14 | 43.20 | 123 | 24.62 |

表3 繁殖専門農場繁殖-I (分娩・離乳後、直ちに出荷している農場)

| | 件数 | 母豚数 | 生産指数 | 分娩回数 / 年 | | 離乳頭数 / 母豚 | | 出荷子豚数 / 母豚 | | A 薬品費 / 子豚 | |
|-----|----|-----|--------|----------|-------|-----------|-------|------------|-------|------------|-------|
| | 5 | 平均 | | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 |
| 基準値 | | | 100.00 | 2.30 | 20.00 | 22.53 | 20.00 | 22.53 | 40.00 | 90 | 20.00 |
| 平均値 | 5 | 796 | 114.99 | 2.37 | 20.65 | 26.87 | 23.85 | 26.87 | 47.70 | 77 | 22.80 |

表4 子豚育成農場 (繁殖専門農場-Iから離乳子豚を導入し、肥育用素豚として出荷している農場)

| | 件数 | 出荷頭数 | 生産指数 | 1日平均増体量 | | 出荷率 | | A 薬品費 / 子豚 | |
|-----|----|--------|--------|---------|-------|-------|-------|------------|-------|
| | 2 | 平均 | | 実績 (g) | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 |
| 基準値 | | | 100.00 | 445.00 | 40.00 | 95.00 | 40.00 | 70 | 20.00 |
| 平均値 | 2 | 45,477 | 133.69 | 502.07 | 45.13 | 98.82 | 61.06 | 44 | 27.50 |

表5 肥育専門農場-II (繁殖専門農場-IIまたは子豚育成農場から子豚を導入し、肥育している農場)

| | 件数 | 出荷頭数 | 生産指数 | 農場飼料要求率 | | 出荷率 | | A 薬品費 / 肉豚 | |
|------|----|--------|--------|---------|-------|-------|-------|------------|-------|
| | 19 | 平均 | | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 | 実績 | 指数 |
| 基準値 | | | 100.00 | 3.30 | 55.00 | 97.50 | 25.00 | 126 | 20.00 |
| A | 5 | 8,930 | 123.25 | 2.88 | 61.90 | 98.74 | 37.46 | 102 | 23.89 |
| B | 5 | 12,702 | 104.70 | 3.01 | 59.81 | 97.81 | 28.11 | 146 | 16.79 |
| C | 5 | 9,400 | 93.45 | 3.58 | 50.34 | 97.37 | 23.67 | 130 | 19.43 |
| D | 4 | 7,995 | 82.10 | 3.90 | 44.97 | 97.33 | 23.23 | 165 | 13.90 |
| 最高成績 | | 1,310 | 132.30 | 2.47 | 68.76 | 99.63 | 46.32 | 44 | 33.02 |
| 最低成績 | | 5,584 | 80.28 | 4.61 | 33.14 | 96.11 | 11.09 | 198 | 8.61 |
| 平均値 | | 9,849 | 101.86 | 3.31 | 54.74 | 97.84 | 28.38 | 134 | 18.75 |

表6 肉豚または子豚1頭あたりA薬品費使用

一貫経営

| 薬品費 / 肉豚 | 農場数 | 平均金額 |
|--------------|-----|------|
| 100 円未満 | 22 | 56 |
| 100 円～ 199 円 | 24 | 145 |
| 200 円～ 299 円 | 15 | 243 |
| 300 円～ 399 円 | 27 | 352 |
| 400 円～ 450 円 | 16 | 417 |
| 平均 | | 236 |
| 最高 | | 2 |
| 最低 | | 445 |
| 上位 25%の平均 | 26 | 92 |

繁殖専門農場 (繁殖-II)

| 薬品費 / 子豚 | 農場数 | 平均金額 |
|--------------|-----|------|
| 100 円未満 | 5 | 49 |
| 100 円～ 199 円 | 2 | 113 |
| 200 円～ 250 円 | 4 | 221 |
| 平均 | | 123 |
| 最高 | | 11 |
| 最低 | | 231 |
| 上位 25%の平均 | 3 | 54 |

肥育専門農場 (肥育-II)

| 薬品費 / 肉豚 | 農場数 | 平均金額 |
|--------------|-----|------|
| 100 円未満 | 5 | 69 |
| 100 円～ 200 円 | 14 | 157 |
| 平均 | | 134 |
| 最高 | | 44 |
| 最低 | | 198 |
| 上位 25%の平均 | 5 | 102 |

アフリカ豚コレラ(ASF)はアスファウイルス科アスフィウイルス属(*Asfarviridae Asfivirus*)に属するアフリカ豚コレラウイルス(*African swine fever virus*;以下ASFV)による豚とイノシシの熱性伝染病で、強い感染力と高い致死率を特徴とします。人には感染しません。ASFVは本病に罹患した豚やイノシシとの直接的または間接的な接触により豚群内で急速に広がり、養豚業に深刻な打撃を与えます。また汚染した豚肉中で長期間感染力を維持するため、精肉や非加熱の豚肉加工品を介して遠隔地に持ち込まれ、食品残渣の給与等を通じて未発地域に侵入します。常在地や流行地では野生のイノシシ間の伝播やヒメダニ属(軟ダニ(*soft tick*)の*Ornithodoros*属)を介した感染環が形成され、防疫を複雑にしています。本邦では未発生です。ASFVは常在地であるアフリカ諸国で問題とされてきましたが、近年の物流の増加によって、東欧やロシアなどこれまで流行の見られなかった地域へと発生は拡大しています。昨年8月に中国に侵入し、その後半年で中国全土に広がっています。さらに今年に入ってモンゴルおよびベトナムでの発生も報告されました。世界最大の養豚国である中国での発生は、今後さらなる発生拡大が危惧され、日本を含めた近隣東アジア諸国への侵入、感染拡大のリスクは高いと考えられています。

原因と病態

本病の病原体であるASFVは、2本鎖DNAをゲノムにもつ直径約200nmの非常に大きなウイルスです。そのため空気感染はほとんど起こりません。ウイルスの血清型(抗原性)は単一と考えられている一方で、塩基配列の違いに基づく遺伝子学型として

は現在のところ24種に分類されています。東欧、ロシア、中国で分離された株の遺伝子型はII型であることが明らかにされています。

症状としては、41℃以上の発熱、元気消失、食欲不振がみられます。皮膚のうっ血、紅斑が強く見られる場合もありますが、多くは著変を示すことなく感染後1週間以内に突然死します。感染1週間以上経つと、下痢や血便、耳や四肢の紅斑、呼吸器症状がみられるようになります。妊娠母豚では流産も見られます。日本のような未発地域に本病が侵入した場合、ほぼ100%発熱して致死率はほぼ100%に達します。ただ、ASFVは非常に感染伝播力が強いウイルスではありますが、農場内にウイルスが侵入してから1週間ほどかけて豚間の伝播が起こり、その後1週間ほどかけて斃死が少しずつ増えてみられるような発生を示すことが多く、口蹄疫や鳥インフルエンザと比較して少し緩やかに進行することが確認されています。大規模養豚場では伝播の最中に発生が摘発されるため、致死率が低く報告されることもあります。

最も特徴的な解剖時肉眼所見として、脾臓の黒色化と腫大(うっ血性脾腫)、胃の周囲のリンパ節の暗赤色化が挙げられます。この脾臓と胃の周囲のリンパ節の病変は非常に特徴的で他の疾病と鑑別することが可能です。また、赤色透明の腹水や胸水の増量、扁桃の出血(赤色化)、腸間膜リンパ節の腫大と暗赤色化、腎臓の点状出血もしくは暗赤色化、消化管粘膜の出血、肺水腫も特徴的です。これらの所見の組み合わせや発現頻度には症例によってそれぞれ差はあります。重篤な症例では心外膜心内膜の点状出血、肝臓の出血斑、膀胱や胆嚢の粘膜の点状出血等の内臓諸臓器の出血性病変が認められます。解剖時に血液が固まりにくく、血餅ができにくいというのも本病の特徴の一つと考えます。

診断と
予防



ワクチンや予防薬、治療薬はありません。診断後は速やかに殺処分し、埋却・焼却等の防疫措置を実施すべきです。ASFVはエンベロープを持つウイルスなので、逆性石鹼など多くの消毒薬が有効です。ただ有機物含有の高い状態だと消毒薬の効果は減退するので、長靴や車両などは糞便などを十分に洗浄してから消毒する習慣をつけましょう。また熱には弱く、70℃、30分、80℃、3分の加熱処理でウイルスは感染性を失います。海外から国内への侵入を防ぐ水際防疫が重要で、また万が一汚染した食肉・食肉加工品が国内に持ち込まれてしまっても、農場のバイオセキュリティの強化に努め、ウイルスを農場に入れないことが重要です。特に餌の管理が重要で、厨芥を豚に与える場合には十分な加熱処理を行う必要があります。

ブタの
ウイルス病

連載 No.20

アフリカ
豚コレラ



農研機構動物衛生研究部門
越境性感染症研究領域
海外病ユニット(海外病研究拠点)

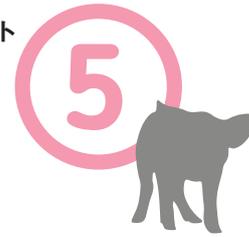
上級研究員

山田 学

連載

種豚の能力を最大限発揮させるための飼養管理、栄養管理のポイント

フラッシング



中部飼料(株)研究技術部養豚グループ 石川靖之

最近の海外種豚の給与体系マニュアルをみているとフラッシングについて必ず記載があります。フラッシングについてはすでに実施されている生産者さんも多いと思いますが、今回はフラッシングの効果や時期、給与期間についてお伝えしたいと思います。

まず、フラッシングとはどういうことなのかを説明したいと思います。フラッシングは「増し飼い」というふうに日本語に訳されますが、単純に種付け前母豚および若雌に対して給与量を増やせばよいというわけではありません。増やす栄養の中身に考慮するとより効果が高くなります。

フラッシングで必要となる栄養は炭水化物由来のエネルギーです。いわゆるデンプンや砂糖、ブドウ糖などの糖質です。ではこの糖質を増やすとどうなるか？というと、体の中に入った糖質は血液中に溶け込んで血糖値を上昇させます(図1)。血糖値が上昇するとホルモンの一種であるインスリンが分泌され、全身の臓器細胞にブドウ糖を取り込ませ、血糖値をコントロールします。このインスリンの分泌によって、脳に対し外界には繁殖を行うのに十分な栄養があると認識させ、繁殖に関わるホルモン分泌が活発となり排卵増加につながります。最近ではフラッシングに特化した推奨栄養の

紹介や飼料なども製造されていますし、種付け前に1日当たり150g以上のブドウ糖を別添する方法なども紹介されています(ブドウ糖の入手が難しければ砂糖や片栗粉、コーンスターチなどでも代用は可能です)。

次にフラッシングはどの程度の期間実施するのが適切かですが、表1の通り、10～14日程度フラッシングを行うと排卵数は安定して増加する傾向が見られます。しかし、経産豚については離乳から種付けまでの期間となりますので長くて1週間、平均的には約5日程度になると思われ、表1のような期間給与することは難しいと考えられますが、反対に若雌については発情確認を事前に行うことで、初回種付け前10～14日程度の期間フラッシングを実施することができます。

つまりフラッシングは、離乳後母豚に行うことも重要ですが、若雌育成豚に対して丁寧に行うことが最も効果が得られるのです。また以前に紹介したように、初回分娩の成績が良いと生涯を通じて安定した成績が得られます(図2)。初回種付け前若雌育成豚に対しフラッシングを行うことは生涯成績の向上につながりますので、若雌育成豚へのフラッシング実施についてぜひご検討ください。

図1 給餌管理 フラッシングの重要性

フラッシングでなぜ排卵数が増えるのか？

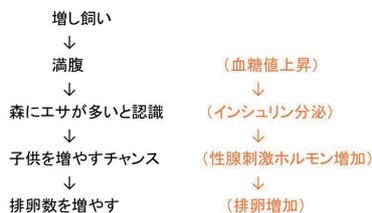


図2 初回生存産子数別にみる産次別生存産子数の推移

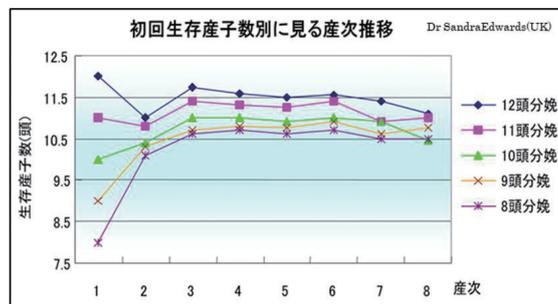


表1 若雌種付け前フラッシングの排卵数への効果

| No Trials | Duration of Feeding | Increase in Ovulation |
|-----------|---------------------|-----------------------|
| 例数 | 種付け前のフラッシング期間 | 排卵数の増加 |
| 6 | 0-1 | 1.35 |
| 6 | 2-7 | 0.86 |
| 8 | 10 | 1.58 |
| 14 | 11-14 | 2.23 |
| 15 | 17-21 | 0.66 |

農場防疫の さらなる徹底をお願いします！

26年ぶりに国内で発生した豚コレラは野生イノシシの感染もあって拡大し、未だ終息には至っていません（3月現在）。

また、中国で蔓延しているアフリカ豚コレラは周辺国に拡大、旅客の感染豚肉製品の持ち込みなどもあり、侵入の危険性が高まっています。水際での侵入防止に国を挙げて取り組んでいますが、万が一にも農場へ侵入することのないよう、くれぐれもお気をつけいただき、防疫対策のなお一層の徹底をお願いします。

注意するポイントを挙げてみました。認定農場なら当たり前のことばかりですが、再確認してみてください。

<注意すべきポイント>

- 農場従事者は手洗い、うがいを徹底しましょう！
- 農場内外、侵入道路には石灰をしっかりと散布しましょう！
- 農場のフェンス沿いや侵入道路脇の草木刈りを徹底し、イノシシなどの野生動物が近づけないようにしましょう。フェンス沿いは幅5メートル以上行います。野生動物にとって身を隠すことのできない危険区域を作りましょう。
- 処理場等から帰ってきたトラックは絶対に農場に近づけないようにしましょう！
- 出荷用肉豚の受け渡しはデポを使うなど農場から離れたところで行いましょう！
- 豚舎ごとに専用長靴を設置し、その都度履き替えるようにしましょう！
- 消毒用踏込槽の消毒液はこまめに交換しましょう！
- フェンスが破損している個所があったら速やかに修理しましょう！
- 履物を履き替える場所には板スノコを置き、利用しましょう。
- 宅配便で届く物品の受け渡しはSPFエリアから離れた場所で行いましょう。宅配ボックスなどの設置を業者に相談してみてください。
- 死亡豚の処理は農場からできるだけ離れた場所で行いましょう。

今号に、上記の注意すべきポイントをまとめた文書を同封しております。事務所等に掲示いただき、注意喚起にご活用下さい。

協会からのお知らせ

○理事会を開催

平成30年度の理事会を3月25日（月）、協会事務所にて開催し、6月の定時総会（6月12日開催予定）に諮る議事等について協議いたしました。

○認定委員の交代

組織内人事異動に伴い、全農畜産サービスピラミッドの認定委員が、平井結花氏から沖祐子氏に交代いたしました。

○子ども食堂への引き続きのご協力 ありがとうございます。

千葉県内の認定農場各位にご協力いただいております「市川子ども食堂」への豚肉等食材提供も25回を数え（2月現在）、のべ利用者数が1,000人を超えました。本当の豚肉のおいしさを多くの子どもたちが実感できる、貴重な機会になっております。ご協力に感謝いたします。今後ともよろしくご協力いたします。

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPF豚ロースの 豚丼

●レシピ提供・レストランどうなん de's ocuda spirits

料理長 八木橋 一洲 (北海道 木古内町)

今回は1人前がローススライス肉5枚という、ボリュームたっぷりの豚丼をご紹介します。ビールで漬け込むことでさらにやわらかくなるようです。そのあとじっくりたれに付け込んでおいしさがアップ。焼き野菜と温泉卵で彩りもバッチリです。

●材料 ● (4人前)

- ・ SPFポークローススライス 20枚
 - ・ ビール お肉が浸るくらいの量
 - ・ 焼き野菜 お好みのものを適量
 - ・ 温泉卵 4個
 - ・ 白髪ねぎ 適量
 - ・ ご飯 適量
- <タレ>
- ・ 料理酒 5カップ
 - ・ しょうゆ 300cc
 - ・ みりん 300cc
 - ・ ざらめ 400g
 - ・ タイムホール 少々
 - ・ オレガノホール 少々

●つくり方 ●

- ① ロース肉を容器に入れ、肉が浸るくらいまでビールを注ぎ、冷蔵庫で一晩置きます。
- ② たれの材料を鍋に入れて沸かし、中火で15分ほど火を入れます。冷まして余熱をとっておきます。
- ③ ①の肉を取りだし水気を切ります。ビールは捨てます。
- ④ 同じ容器に②を入れて肉を浸し、一晩置きます。
- ⑤ フライパンを煙が出るくらいまで強火で温め、油をひかずに④を入れ、両面を10秒ほど焼きます。
- ⑥ 器にご飯をよそい、⑤、焼き野菜、温泉卵を盛り付け、白髪ねぎをのせて完成です。

★八木橋シェフからのアドバイス

ビールにしっかり一晩漬け込むこと。お肉がやわらかくなります。焼くときは少し焦げ付くくらいの焼き色を付けた方がいいです。

認定情報

●2019年3月認定農場

(有効期間：2019年3月7日から2022年3月末日まで)

秋田県・(有)十和田湖高原ファーム、全農畜産サービス(株)由利本荘SPF豚センター、(株)シムコ大館GGPセンター、宮城県・サンエス丸森農場、(株)シムコ岩出山事業所、茨城県・(有)中村畜産、全農飼料畜産中央研究所、同実験動物豚舎、千葉県・(株)シムコ館山事業所、(株)スターピッグファーム、鈴木治彦養豚、飯田養豚、(有)ピギー・ジョイ第2農場繁殖農場、同肥育農場、(有)伊藤養豚飯岡農場、(有)鍋木ピッグファーム、宝理養豚繁殖農場、同肥育農場、長野県・(農)エスピー

エフこがねや第二農場、JA全農長野SPF繁殖センター、JA大北白馬アルプス農場、富山県・(株)シムコ八尾GGPセンター、愛知県・(株)知多ピッグ前山農場、同美浜農場、島根県・奥出雲ファーム(有)、熊本県・全農畜産サービス(株)西日本原種豚場、(有)やまとんファーム、(有)ピッグファーム陳、(株)佐々牧場、同第二農場、宮崎県・(株)ナンチクファーム守山細田農場、鹿児島県・鹿児島いずみ畜産(株)出水農場、同阿久根農場(以上33農場)

※次回認定委員会は2019年6月6日(木)の予定



高安恵子さん
大橋絵美さん
(千葉県銚子市・東庄町)

父の遺志を継いで奮闘する
ママ社長と支える片腕
女性パワーで居心地のよい職場に



高安恵子さん(左)と大橋絵美さん。手にしているのは従業員が手作りしてくれた農場の看板。

高安恵子さんは、なかなかお目にかかれない(!?)女性経営者。とても2人の男の子のママには見えません。それもそのはず、畜産のイメージを変えたいと、酪農や養豚に携わる女性5人で「カウミックス」を結成、オリジナル曲も作成しイベントなどで活躍した、元「歌って踊れる地域限定アイドル」です。

恵子さんは認定農場・愛東ファーム(株)の先代社長、実川浩通さんの長女。実川さんは3年前の9月、突然の病で倒れ、4か月の闘病生活を経て、帰らぬ人になりました。55歳の若さでした。

当時恵子さんは結婚1年目、臨月の身重だったそうです。「当時の記憶がないんです」。出産後1か月で農場へ復帰、仕事と子育て、病院通いの日々でした。いかに大変だったかがうかがわれる言葉です。

祖父の代から養豚を営む実川家、恵子さんも学校の休みには農場に入り祖母に教わりながら豚の世話をしていたそうです。高校卒



事務所には長男悠天(ゆうま)くんと次男敬斗(けいと)くんの写真入りのカレンダーが。パワーをもらえますね。

業後、2年間の会社勤めの後、農場へ。もともと豚好きだったところに仕事熱心な性格もあって、ひまさえあれば農場に。「ずっと豚舎にいたいと思うぐらい」で時には夜中まで分娩舎にいたこともあったそうです。

増頭計画が持ち上がったとき、お父さんから「跡を継ぐならやる」といわれ、後継者になることを決意、法人化も果たします。とはいえ、これほど早くとは思ってもよらなかったことでしょう。父亡きあとを支えてくれたのは、同じ地域の認定農場で組織するグループ「東の匠SPF豚研究会」の先輩たちでした。一生懸命取り組む恵子さんをみんなで助け、盛り上げてくれ「人の温かさを実感しました」。

そんな恵子さんの強い味方が農場にも。1年半ほど前から勤務する大橋絵美さんです。茨城県の農業高校卒業後、とにかく動物が好きで、豚が好きで、ずっと養豚場で働いてきたという筋金入り。高校生のお子さんを持つ先輩ママでもあります。「豚のことも子育てのことも何でも相談できて、心強いです」と恵子さん。農場の成績も安定してきました。

ご主人は豚とは無縁の米専業農家、長男と昨年生まれた次男の世話は実母の助けを借りつつ、7人の従業員とともに、300頭規模の2サイト農場を切り盛りする恵子さん。目標は?「子育てしながら仕事ができているのはみんなに支えられているから。働く人が居心地のいい農場にしたいですね」。大橋さんは「東の匠グループで1番の成績になりたいです!」と頼もしい言葉。現在産休中の従業員が復帰すれば、ますます女性パワーいっぱい、しなやかな魅力にあふれる農場になりそうです。(編集部)

編集後記

新年度がスタートしました。しかし、何か心が晴れ晴れとしません。豚のご先祖さまの年だというのに。豚コレラはどうなるのでしょうか。中国語に「逢九必乱」という言葉があり、西暦で末尾に9がつく年は、動乱や戦乱が起きるという意味のようです。今の日本で戦乱は考えにくいですが、騒乱はあり得るのでは?今年度、協会は創立50周年を迎えます。これからの50年を前にした今号の特集記事での秦副会長の提案は全くその通りで、トンネルの出口を見る思いです。今まで積み上げた実績を基礎にさらなる高みをめざし、皆さんと力を合わせていきたいと思えます。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第75号 2019年4月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀